

男性の家事・育児等への 参画に向けた気運醸成事業

性別にかかわらず、誰もがいきいきと豊かに 暮らすためには、男性の家事・育児への 参画が不可欠

都の政策目標(2020年に向けた実行プラン)

○就学前の児童を持つ父親の家事・育児時間

2016年度 121分／日 → 2024年度 3時間／日

○「男性も家事・育児を行うことは当然である」というイメージを持つ都民の割合

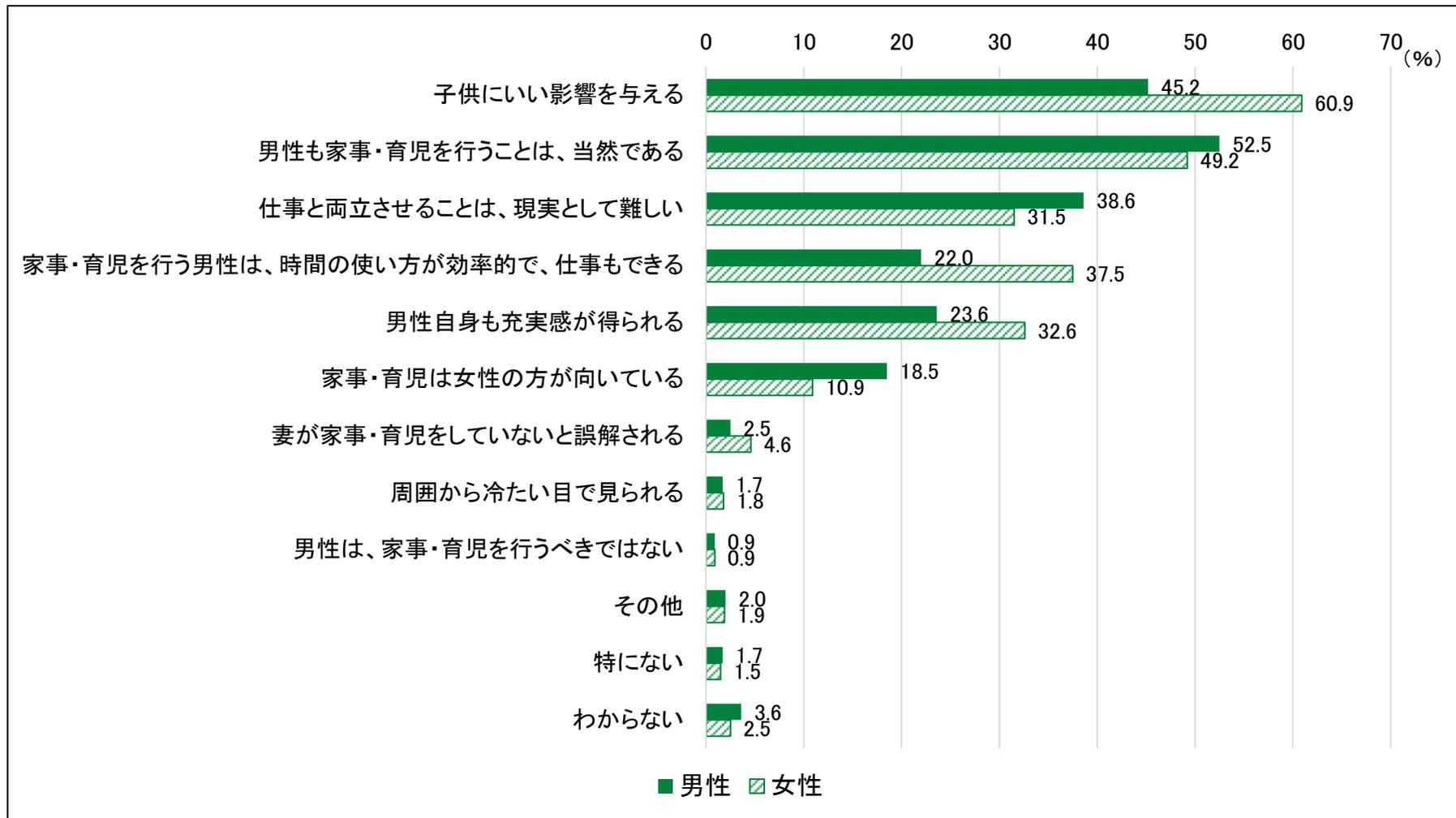
2015年度 50.9% → 2020年度 70%

父親が育児をすると子供によい影響が多い

	父親の行動	子どもへの影響
未就学児	父親の子育て参加が多い	成人後に教育・経済的な業績が増える 子どもの非行が減る 3歳の時点で情緒的・社会的発達が良い
	父親との遊びが多い	子どもの情緒性、社会性、自発性、独立意識が高い
	父親と関わりが多い	友人ネットワークが広がる
就学児	父親と接触時間が多い	社会性が豊かになる、自尊感情が高い
	父親が子どもの習い事に関心を持ち、サポートする	子供自身の習い事における能力感を高める

出典：平成30年3月27日 東京都男女平等参画推進会議施策検討会資料「共働き家庭の家事育児分担の現状」
 (明治大学藤田結子教授 『「育メン」現象の社会学』(石井クンツ昌子著、ミネルヴァ書房、2013年)をもとに表を作成)

男性が家事・育児を行うことへのイメージ



資料: 東京都生活文化局「平成27年男女平等参画に関する世論調査」

男性が主体的に家事・育児に取り組む意識啓発が必要

男性の家事・育児等への参画に向けた気運醸成事業 (30年度実施予定)

①Webサイトを開設し、 記事などを掲載

(掲載内容の例) ※詳細は今後検討

- ・家事を「手伝う」ではなく「シェアする」心構え
- ・家事、育児タスク表
- ・男性向け家事、育児実践法
- ・夫婦間のコミュニケーション
- ・家事、育児を行う男性の事例
など

②広報展開

→ 男性の家事・育児への参画について、広く都民に発信

(広報媒体の例)

- ・SNS、交通広告、イベントとの
コラボ など

スケジュール(予定)

3月: 施策検討会

4月: 女性も男性も輝くTOKYO会議

→ 議論を施策に反映

9月~3月: 記事作成・掲載、広報発信